

杉政貿易

中古重機改造に参入

分解・組み立て効率化

土木建設機材販売・リースの杉政貿易(富山市田中町、杉政明則社長)は中古の重機をベースに、短時間で分解や組み立てができるよう改造する事業に乗り出した。改造した重機は、主に山間部で作業する建設業者に販売・リースを行う。重機の組み立てから点検・整備まで一貫して受注できる体制を整え、新たな事業の柱に育てたい考えだ。

道路が整備されていない山間部にヘリコプターで重機を運ぶ場合、ヘリの可搬重量に

提に設計されていないため分解・組み立てに手間がかかる上、油圧ホースや配線などの接続がうまくいかず不具合が生じるケースがあった。

同社はエンジンフレームやアームなど複数のパーツに分解してそれぞれの重量バランスを調整するとともに、パーツ同士をボルトで締め付けられるよう改造。ホースや配線にはそれぞれアタッチメントを装着し、簡単に確実に取り付けられるように工夫した。

これらの改造により重機の運搬から組み立て、稼働までにかかる日数は従来の1週間から1〜2日に短縮。現場作業の工期が短くなり、人件費の削減も見込めるという。

当面は需要が見込める油圧ショベルや「カニクレーン」と呼ばれる重機を対象に改造する方針。販売やリースのほか、将来は自社で重機を保有し、災害復旧時などの急な貸し出し需要などにも対応できるようにする。



短時間で分解・組み立てできるように改造した油圧ショベル＝富山市田中町